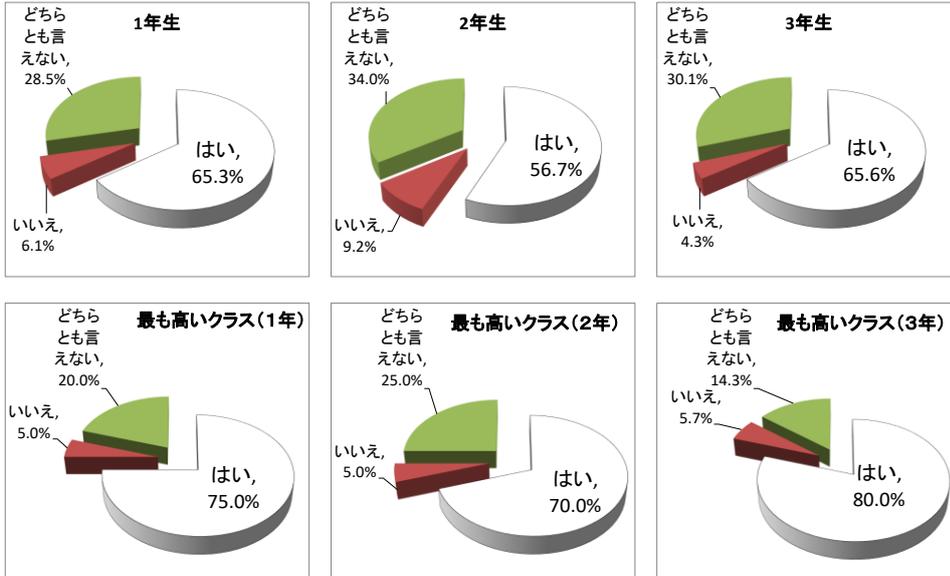


令和2年度第1回ホームルーム活動に関する調査 令和2年9月実施

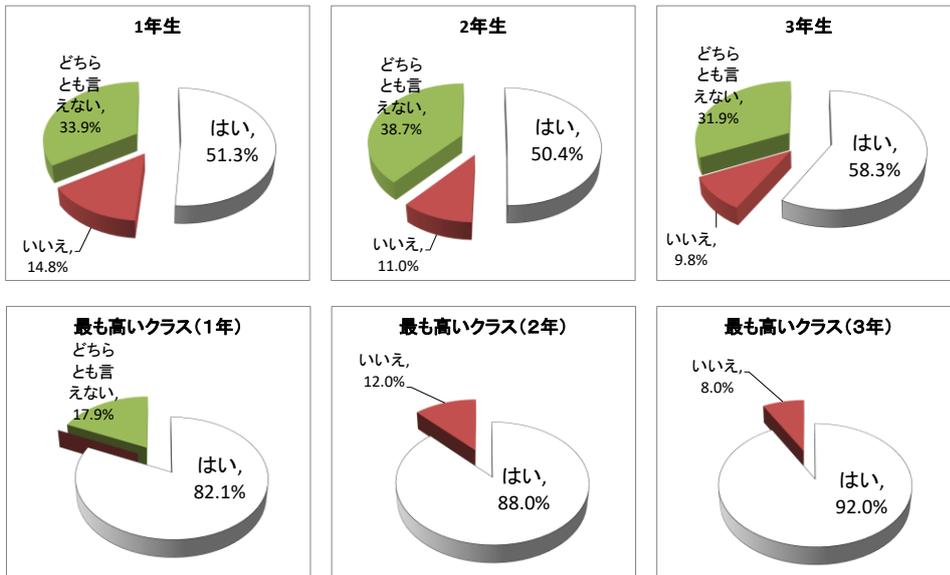
質問1 ホームルームは、毎回、テーマや活動内容があらかじめ計画されていますか。



ホームルーム活動は、年間指導計画に基づいて、意図的・計画的に実施するものですので、クラスによる差が生じることは望ましくありません。担任の先生方が、常に情報共有を行うことが求められます。

本調査を開始以来、しかし、クラスによる差は年々小さくなってきています。1学年280名・320名を、7人・8人の担任が全員で指導できる体制が重要です。

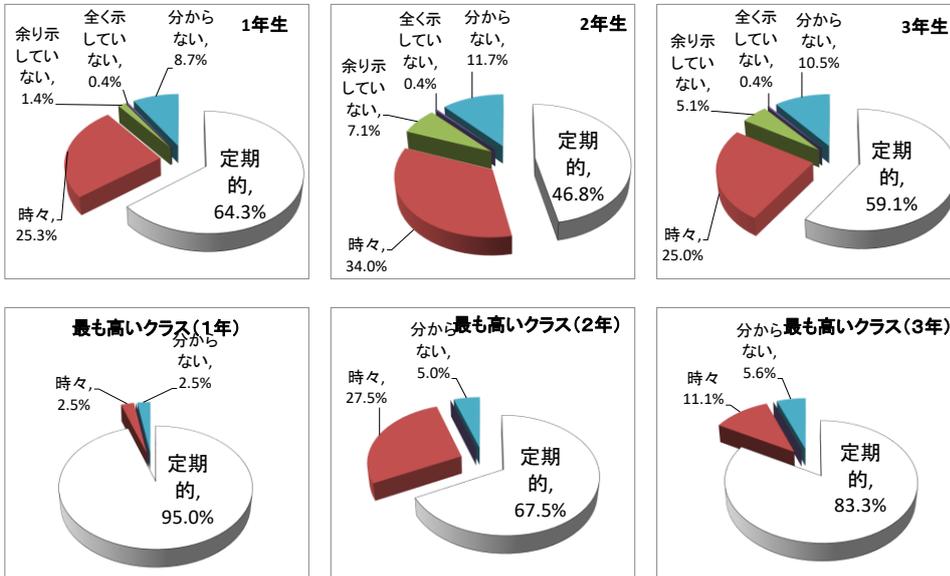
質問2 ホームルームでは、話し合いや発表などの活動が行われていますか。



話し合いや発表の活動は、生徒の自主性を涵養し、社会性を培うだけでなく、将来の進路について考え、自ら道を切り拓いていく志を立てるために重要な役割を果たしています。

例年、3年生は30%前後で推移してきましたが、73期生は非常に高い水準を示しています。2年生(74期生)は例年とほぼ同様の結果です。1年生(75期生)は、例年より14ポイントほど低くなっています。

質問3 担任の先生が、ホームルームで、みなさんの学習や進路に関する期待を明確に示していますか。



生徒に対して、学習や進路に関する期待を明確に示すことは、生徒の進路実現に重大な役割を果たしています。担任の先生はもちろん、すべての教科担当の先生に、生徒に対する期待を、ホームルーム活動や授業において、毎回、明確に示すよう、学校経営計画に位置付けています。

進学実績が大きく向上した71期生、72期生のデータと比較してみると、3年生(73期生)は、4ポイントほど高い結果です。2年生(74期生)は、逆に5ポイントほど低くなっています。1年生(75期生)は、倍増して33ポイント余り高くなりました。

優れた取組を共有することで、学年全体に成果を還元することが重要です。